

号	年	月	執筆者	題
1	1971	12	岩井 要 原崎 清 小池健治 岡川誠二 今村嗣夫	われわれの信仰と教会を考える・発刊にあたって 門の外で・ヘブル人への手紙15:12-13 信仰告白としての靖国斗争 電車が停まって発車して 雪 大久保集会定期集会案内 編集後記
2	1972	5	前島、今村加 掛井五郎 笹淵昭平 小池常隆 尾池幸子 今村嗣夫 前島、今村	あなたは何を見るか・エレミヤ書1章 会社生活と私の信仰 インドにて …………と、。ふたりづれ ろば 編集後記 大久保集会定期集会案内
3	1972	8	吉田良行 古野明美 宇田川ますみ いまむらつぐお 佐々木直律	ガラテヤ人への手紙に導かれて 私の言葉 日曜学校と私 せみ 大久保集会定期集会案内 ろばのひとりごと 編集後記・信、加奈子、博、佐枝子
4	1972	12	尾池幸子 岡川誠二 掛井五郎 掛井芙美 小池佐枝子 小池常隆 権田倫子 今村嗣夫 笹淵いづみ 笹淵昭平 佐藤忠彦 高瀬浩之 袴田貞幸 坂 敬夫 前島恵子 前島 信 いまむらつぐお	またまた気負った一言 遠いおもい出 贈物 メキシコのクリスマス 1972/12/2朝 ヘンシーン クリスマスカード 年ごとに思い異なるクリスマス クリスマスと母 父親失格 おじいさんの話 祈る時 共に生きるということ クリスマスを迎える 星の言葉 大久保集会定期集会案内 編集後記・加奈子、信、博、佐枝子
5	1973	4	前島 信 坂 敬夫 笹淵いづみ 権田一正	昨年秋から総会まで あたりまえからあたりまえでないことへ 私の隣人は 真実
6	1973	8	編集部 木田献一 笹淵昭平 坂 敬夫 いまむらつぐお 伊藤誠彦 (I)	新しき世に生きる一エペソ書研究から学んだこと なくてはならないもの 保険会社から神学校へ職を転じて 私は何に仕えるか マルコ伝の通読から 個人消息 引いていく波 集会日誌 只今帰りました 編集後記
7	1974	3	掛井五郎	冬の旅

号	年	月	執筆者	題
			今村嗣夫	おそれ一続アナニアとサッピラ
			前島恵子	ある日の雪ん子
			尾池幸子	ぐずのくりごと
			佐々木直律	俳句
			神鷹徳治	正月句会から 題“寒”・岡川、笹淵、坂、小池 公害問題あれこれ
8	1974	3	伊藤誠彦 木田献一	編集後記・伊藤、神鷹、今村加 はじめに 集会の今後の課題 夏期修養会
			掛井五郎	総合討論
			伊藤、神鷹、今村	編集後記
9	1974	4	笹淵昭平	「天皇制」の論議を行って
			今村加奈子	日本歴史と天皇(1)天皇はどのようにして発生したか
			笹淵昭平	日本歴史と天皇(2)天皇は何故つづいて来たか
			前島信	キリスト教信仰と天皇(1)唯一信仰と天皇
			高瀬浩之	キリスト教信仰と天皇(2)聖書における権威(権力)
			権田一正	ひとこと「私にとって、天皇とは？」
			今村加奈子	ひとこと「私にとって、天皇とは？」
			伊藤誠彦	ひとこと「私にとって、天皇とは？」
			掛井五郎	ひとこと「私にとって、天皇とは？」
			神鷹徳治	ひとこと「私にとって、天皇とは？」
			小池健治	ひとこと「私にとって、天皇とは？」
			岡川誠二	ひとこと「私にとって、天皇とは？」
			笹淵昭平	ひとこと「私にとって、天皇とは？」
			(I)	編集後記
10	1974	8	木田献一	イスラエルの宗教基礎
			編集部	総会の記録
11	1974	8	小池常隆	『恐ろしい出来事』—復活節を迎えるに当たって
			岩井 要	『シェナ』の石だたみ
			今村嗣夫	五月の唄
			小島悦子	「行ったり来たり」
			菅谷博	聖書と生活
			袴田貞幸	仕事と聖書
			袴田幸子	
			掛井五郎	「否」
			伊藤誠彦	カンガルーの皮・ワニの皮—編集後記に代えて
			準備委員	大久保集會夏期集會予告
12	1974		木田献一	神の民・イスラエル
			神鷹徳治	軽井沢修養会の記録
			阿蘇敏文	「人格」という言葉
13	1975	8	阿蘇敏文	大久保集會専従
			木田献一	あがないの運動
			今村嗣夫	詩
			笹淵昭平	経過報告
			座談会	阿蘇牧師を迎えて 大久保集會を語る
			阿蘇敏文	「牧師日誌」より
			今村嗣夫	日本赤軍
			(I)	編集後記
14	1975	10	木田献一	発題したことの背景
			笹淵昭平	私の贖罪信仰
			編集委	ろばの横顔
			木田みな子	主題講演及び発題への応答
			阿蘇敏文	子供礼拝報告
				12年計画—計画の前に

号	年	月	執筆者	題
				大久保集会の自己イメージ 大久保が直面している課題—グループ報告と応答 修養会プログラム 閉会祈祷会 編集後記
15	1975	12	伊藤誠彦 阿蘇敏文 木田献一 浅木仰二	ろばに乗るメシヤ マタイ12:1-14による説教・マルコ4:1-6参照 応答・伊藤、浅木、木田 大久保集会懇談会 牧師専任教師就任について ことばと天皇制 編集後記
16	1976	4	神鷹徳治 小池常隆 黒木あい 阿蘇敏文 木田みな子 神鷹徳治	この一事を務める 正月句会「初風呂」 わたしたちの礼拝と音楽 『魯迅と週末論』伊藤虎丸著 編集後記
17	1976	6	阿蘇敏文 伊藤誠彦 伊藤誠彦 掛井賢治 佐々木直律 阿蘇敏文	今年も続ける大久保集会 1976年度総会記録 書記の感想 「馬」 流るる水に棹さして 編集後記
18	1976	8	木田献一 笹淵昭平 掛井美美 戸村一作	この世の秩序を逆転させるもの 無力で貧弱な霊力、天皇制 応答・岩崎、佐藤、木田、岡川、神鷹、伊藤 私の8月15日 イエスに直面して 応答・掛井、権田、戸村、笹淵、今村 靖国デモ6周年記念に参加して なぜ天皇制を問題とするのか—修養会にむかって 編集後記
19	1976	10	木田献一 準備委員会 岡川誠二 浅木つる江 佐藤忠彦 前中栄子 権田倫子 菅生尚子 渡辺澄子 阿蘇敏文 笹淵昭平 大庭昭博 石黒柳子 小池健治 水野 誠 小池佐枝子 山口修子 木田献一 小池徹郎 中村母美江 小池恵子 木田新一	メシヤ思想の再検討 応答・笹淵、石原、権田、木田 修養会プログラム 修養会を省みて ろばの子たち 大久保集会へのひとつの問い 修養会感想

号	年	月	執筆者	題
			笹淵いづみ	修養会感想
			木田みな子	修養会感想
			あそたびと	修養会感想
			小川哲夫	修養会感想
			渡辺 圭	修養会感想
			小川良子	修養会感想
			木田いづみ	修養会感想
			小池常隆	修養会感想
			阿蘇道子	修養会感想
			小池和之	修養会感想
			古野明美	修養会感想
			小池信治	修養会感想
			掛井三郎	修養会感想
			安積重之	修養会感想
			掛井五郎	修養会感想
			ささぶちのぶこ	修養会感想
			佐藤 研	修養会感想
			こいけみちたか	修養会感想
			浅木五郎	修養会感想
			佐藤かよ子	修養会感想
			権田一正	修養会感想
			浅木麗子	修養会感想
			佐藤直子	修養会感想
			浅木今日子	修養会感想
			ごんだようこ	修養会感想
			小川耕一	修養会感想
			掛井五郎	中原悌次郎賞受賞のときのことば
			大久保集会	天皇在位50周年祝賀記念式典に反対
			今村加奈子	編集後記
20	1977	1	木田献一	職業について
			大庭昭博	学習会合宿を終えて
			小川耕一	喚起せざる主体性—大久保の男たち?
			菅谷 博	津地鎮祭違憲訴訟最高裁傍聴前記
				『職業について』の応答要約
			安積重之	編集後記
21	1977	3	岩井 要	粗い石—建築家の仕事場で考える
			阿蘇敏文	与えられたしるし
			木田献一	創造と契約
				応答・伊藤、笹淵、阿蘇、今村
			小池常隆	1977年度大久保集会定期総会記録
			小池常隆	書記雑感
			佐々木直律	春の囁き・鏡
				総会より・阿蘇、伊藤、笹淵、大庭、佐々木、小池、菅谷
			浅きつる江	喚起されざる主体性/大久保の男たちへの再批判
			阿蘇敏文	編集後記
22	1977	5	木田献一	内部告発としての十字架
			今村嗣夫	『日本文化の特殊性』と少数者の人権
			小池健治	「戦責告白」と大久保集会—時代を担う教会へ
			神鷹徳治	編集後記
				天皇クイズ答
23	1977	7	木田献一	神の民の基礎
			阿蘇敏文	議論もするが作業もする大久保集会—青学神学科・・・支援する風景
			三浦 栄	天皇制について—特に元号の問題
				津地鎮祭傍聴支援
			木田みな子	父の死

号	年	月	執筆者	題
				故有賀鉄太郎氏の略歴
			阿蘇敏文	ろばの横顔
			佐藤忠彦	「すべてのことは許されている」か
			世話人会	世話人から提出された本年度修養会のテーマが...
			三浦 栄	編集後記
24	1977	9	木田献一	民族とアナーキーとろば
			今村嗣夫	民族派对アナーキー派の応酬8・27夜の応答から
			掛井三郎	修養会と僕
			浅木仰二	一切の「保留」なしに「すべてのことは許されている」
			新井たね子	修養会に参加して
			並木千枝子	ろばの子らと
			小池健治	「まとめ」のまとめ
			阿蘇敏文	修養会裏話
				プログラム
25	1977	12	木田献一	人間性の回復
			小池常隆	掛井五郎氏講演
			今村加奈子	私たちにとっての核
			小川耕一	学習会略装の部
			佐藤忠彦	大久保集会臨時総会記録・1977月11日20日
			阿蘇敏文	教会雑感
			阿蘇敏文	編集後記
26	1978	1	木田献一	地の塩となる教会
			阿蘇敏文	ノッポの羊飼い・僕の音楽やあーい
				元旦礼拝と俳句会「正月」
			神鷹徳治	私淑の人
			組の会	「信朋塾」入寮生募集について
			今村加奈子	編集後記
27	1978	3	木田献一	成田空港とキリスト者
			阿蘇敏文	2月11日集会—信教の自由を守る日
			笹淵昭平	ゆるしてはならない大嘗祭
			菅谷 博	2・11集会
			古野明美	まわりの壁
			木田みな子	親子の2・11
			笹淵いづみ	2・11町田信教の自由を守る集会で思うこと
			今村加奈子	公立学校の場合
			阿蘇敏文	「三里塚」とキリスト者
			前島恵子	ろばのせなか(編集後記改名)
			小川耕一	総決起集会参加記
			池田春善	成田と教会
			今村嗣夫	自主防衛と政教分離原則の風化
			小池健治	自衛官合祀拒否訴訟東京出張尋問を終えて
				自衛官合祀拒否訴訟中谷康子さん東京支援会設立準備会
			大久保集会	中谷自衛官合祀拒否訴訟東京出張裁判傍聴支援
28	1978	5	大庭昭博	『ろばと共に』
			木田献一	変革と停滞
			笹淵いづみ	『君が代を唱わないで下さい』—母親の手紙
			小池恵子	定期総会の中から
			大庭昭博	生真面目な野次馬—菅谷博
			佐藤忠彦	ろばのせなか
29	1978	7	木田献一	天皇とキリスト
			伊藤誠彦	『教会派』=『民族派』からの反論—「民族とアナーキー」をめぐって
			笹淵昭平	三里塚闘争への批判的意見
			佐藤忠彦	アジアの苦難を共に
			小池常隆	修養会テーマについて
			(おおば)	信朋塾・大久保集会にほほえみを—小池佐枝子

号	年	月	執筆者	題		
30	1978	10	三浦 栄	ろばのせなか		
			木田献一	旧約から新約へ		
			戸村一作	沖に出よ		
			小池常隆	“修養会” 遠望		
			権田倫子	修養会雑感		
			阿蘇旅人	修養会雑感		
			佐々木久子	修養会雑感		
			榎本恵子	修養会雑感		
			高瀬礼子	修養会雑感		
			佐々木直律	修養会雑感		
						修養会雑感 Petr & Elyn MacInnis
					穂積夏子	「アジアの証言—靖国への拒絶！」集会に参加して
		浅木つる江	援農の記			
		(おおば)	三里塚援農合宿			
		小川耕一	三里塚闘争への批判的意見への批判			
		笹淵昭平	再び三里塚闘争を批判して			
		(おおば)	農民の子よ、ブルースをうたえ—池田春善			
		小池恵子	ろばのせなか			
31	1978	11	木田献一	イエスの敗北と勝利		
			笹淵昭平	教団と大久保集会		
			大久保集会8年の歩み			
			戦う者の拠点としての教会			
		阿蘇敏文	三里塚闘争の批判的意見への再々批判			
		池田春善	「南アルプス」の制作を終えて			
		掛井五郎	楽しみは魔法となって—阿蘇道子			
		(おおば)	ろばのせなか			
		前島恵子	ろばのせなか			
32	1979	1	木田献一	み国を来たせたまえ		
			小池健治	『宗教弾圧を語る』編集を終わっての雑感		
			伊藤誠彦	人を裁くな—最近の「ろば」を読んで		
			神鷹徳治	小川耕一・池田春善両氏の思考形態への疑問		
			三浦 栄	学習会「合宿」報告		
				迎春句会		
				前島恵子	クリスマスのよる	
				(おおば)	団長さん言葉をください—佐々木直律	
				3	『罪人の家』	
				木田献一	イエスは主である	
33	1979	3	野毛一起	歴史を詩う人		
			石黒柳子	受洗して		
			(おおば)	このひとなくしてたちゆかず 古野明美		
			三浦 栄	ろばのせなか		
			阿蘇敏文	ラザロよ、立って、出てきなさい		
34	1979	6	木田献一	「人の子」の権威		
				大久保集会総会 79年3月5日		
				元号法制化反対声明		
				元号法制化反対への呼びかけ		
				1979年3月12日		
				『内村鑑三文明評論集・4冊』山本七平編		
				議論の本位を定めよう		
				泣く年 同時代より		
				ろばのせなか		
				8	民衆の救いと世界の審判	
				木田献一	『ガラスのうさぎ』高木敏子作	
				伊藤千代子	『戦争の責罪』K・ヤスパース著 橋本文夫訳	
		碧南から				
		大庭昭博	『青学神学科訴訟—建学の精神とキリスト教』			
		小池健治				

号	年	月	執筆者	題
			三浦 栄	角田から 中谷康子さん東京支援会で入会とカンパ要請中 修養会に向かって
			柴原照子	修養会に参加してよせて
			権田倫子	参加する事に意味がある
			掛井五郎	「立ちなさい」(彫刻)
			いまむらつぐお	立ちなさい
			佐々木迪淳 (虎)	愛弟子をめぐって ろばの背中
36	1979	9	掛井五郎	修養会開会礼拝証詞
			今村加奈子	夜のプログラム
			木田献一	戦後のキリスト教平和運動
			小池佐枝子	全体協議
			町田龍次	子供のプログラム
			今村嗣夫	発見した隣人
			佐沢耕平	修養会感想
			小池芙佐子	修養会感想
			平山和義	修養会感想
			笹淵 愛	修養会感想
			小池佐知子	修養会感想
			権田謙一	修養会感想
			佐沢淳平	修養会感想
			俊野真奈	修養会感想
			佐藤 研	修養会感想
			小池道隆	修養会感想
			権田陽子	修養会感想
			佐藤直子	修養会感想
			小池徹郎	修養会感想
			長島 祐	修養会感想
			長島 新	修養会感想
			今井仁え	修養会感想
			榎本俊介	修養会感想
			岡田信一郎	修養会感想
			俊野和裕	修養会感想
			笹淵のぶ子	修養会感想
			小池和之	修養会感想
			小池信治	修養会感想
			阿蘇旅人	修養会感想
			木田いずみ	修養会感想
			掛井三郎	修養会感想
			浅木今日子・麗子	修養会感想
			佐々木直律	修養会感想
			サオワラッ	修養会感想
			柴原照子	修養会感想
			高瀬礼子	修養会感想
			佐藤かよ子	修養会感想
			小池佐枝子	修養会感想
			佐沢勝美	修養会感想
			権田倫子	修養会感想
			前中栄子	修養会感想
			長島弘江	修養会感想
			平山公子	修養会感想
			俊野陽子	修養会感想
			阿蘇道子	修養会感想
			小池恵子	修養会感想

号	年	月	執筆者	題
			笹淵いづみ	修養会感想
			今村加奈子	修養会感想
			古野明美	修養会感想
			木田みな子	修養会感想
			谷口文明	修養会感想
			町田龍次	修養会感想
			池田春善	修養会感想
			小川耕一	修養会感想
			小池常隆	修養会感想
			菊池 泉	修養会感想
			佐藤忠彦	修養会感想
			高瀬浩之	修養会感想
			阿蘇敏文	修養会感想
			権田一正	修養会感想
			長島重次	修養会感想
			小池健治	修養会感想
			木田献一	修養会感想
			菅谷ますみ	修養会感想
			佐々木迪淳	泣く年 もう秋なのですか？
			小池佐枝子	ろばのせなか
37	1979	12	木田献一	蚕室中央教会を訪ねて
			笹淵いづみ	朴先生にお会いして
			権田一正	朴先生との出会い
			小川耕一	戸村さんを想う
				学習会報告
			佐々木迪淳	泣く年 同世代のひとたち
			高島敦子	ろばのせなか
			小川耕一	ろばのせなか
38	1980	3	木田献一	罪とデーモン
			小池恵子	クリスマス礼拝と祝会
			小池佐枝子	新年礼拝及び祝会
			高瀬礼子	1980年代をむかえて
			佐々木久子	この年
			前中栄子	演奏会を終えて
				『最高裁と神々続・津地鎮祭違憲訴訟の記録』違憲訴訟守る会編
			阿蘇敏文	朝鮮と私
			佐々木迪淳	耶蘇の年 1979年は終わった
			柴原照子	ろばのせなか
39	1980	5	阿蘇敏文	隣人と共に
			木田献一	第1と第2のいましめ
			今村嗣夫	“大久保”の生きざま—80年定期総会から
			掛井五郎	会員日誌より 5月18日
			中谷康子	中谷康子さんからのお便り
			佐々木迪淳	耶蘇の年
			(サ)	ろばのせなか
40	1980	7	木田献一	審判と救い
			小池常隆	佐々木直律兄略譜
			阿蘇敏文	葬儀の経過
			いまむらつぐお	さびた缶詰
			阿蘇旅人	佐々木さんのこと
			笹淵いづみ	主にある交わりの祖父、佐々木さん
			坂 敬夫	佐々木さんの思い出
			朴 聖慈	静かなる朝「隣人と共に神の御前に」
			(力)	ろばのせなか
41	1980	9	木田献一	隣人と共に

号	年	月	執筆者	題
			小島章弘 佐々木迪淳	福音の力 記者の眠一修養会 大久保集会修養会
			大島孝一 池田春善 朴 聖慈 フミ	人権にかかわる教会の課題/台湾基督長老教会から 蚕室中央教会を訪ねて 静かなる朝 ろばのせなか
42	1980	12	木田献一 水野 誠 佐藤かよ子	主体性と共同性 ネパールの障害児教育 足尾銅山を訪ねて 前号大島孝一兄原稿の誤字訂正の御知らせ 韓国連帯祈祷会に参加 臨時総会議事録
			阿蘇敏文 掛井五、小池佐 申 乃元 佐々木迪淳 小池佐枝子	静かなる朝 きむじゃん(越冬用白菜漬) 『旧約聖書概説』木田献一著 ろばのせなか
43	1981	2	木田献一 高瀬礼子 岡川誠二 朴 聖慈 (さ)	洗礼と聖餐 80年のクリスマス 新春点描 静かなる朝 早点祈祷会 ろばのせなか
44	1981	4	木田献一 小池恵子	神の国のために貧しい人たち 百人町教会定期総会報告 1981年3月8日
45	1981	5	阿蘇敏文 木田献一 笹淵いづみ 高瀬礼子 佐沢かつみ 阿蘇道子 柴原照子 小池恵子 田中和三郎 小池佐枝子	大久保集会改め 百人町教会 人間の叫びに応える神 養育家庭となって2年 里親になって 現代に子を育てる 中1になった長男 かげ絵奮闘記 中I、わが家の場合 聖書との出会い ろばのせなか
46	1981	7	木田献一	聖霊降臨と民衆 浅野順一先生記念号 百人町と浅野先生 弔辞
			笹淵昭平 井上良雄 笹淵昭平 木田献一 今村嗣夫 伊藤虎丸 今村嗣夫 浅野義生 坂 敬夫 岩井 要 吉田良行 T. 礼子 伊藤, 木田	「予言者・浅野先生」1981年6月11日前夜式感話 浅野順一氏を悼む—予言者的キリスト者の軌跡 会員日誌NO. 221 馬小屋のにおい 安らかだった死顔に献げる—戦後思想史の中の先生 『弁護士のこころ』今村嗣夫著 父 浅野先生につかまった人生 浅野先生と私の仕事 浅野順一先生と開拓伝道—牛久教会 ろばのせなか 浅野順一先生略年譜
47	1981	10	木田献一 小田垣雅也 小島悦子 菅谷 博 笹淵昭平 木田いづみ 野毛一起	信仰告白と主体としての人間 ロマ書3章27-31 81年度修養会 修養会の後で考えた事 「わたしの好きなイエスさま」ドラエモンの替え歌 兄弟みたいな信頼関係を作れた 修養会雑感

号	年	月	執筆者	題
			井上輝子	爽やかでした
			小池健, 小池佐	全体協議
			笹淵昭平	子供と遊んだ3日間—修養会子供係り報告
			笹淵いづみ	「子供たちに伝えよう」—修養会映画の夕べ感想
48	1982	1	木田献一	日本の教会・天皇制・アジア
			朴 聖慈	姉妹教会からの手紙
			荒井俊次	アジアと共に
			坂 敬夫	国際障害者年に思う
			今里三代子	福祉を学んで3年目に思うこと
			高瀬浩之	身障者の働く職場から
			阿蘇道子	世界は、変わるか
				百人町新年会
			池田春善	夏期伝報告
			田中和三郎	戦争の膿
			今里三代子	受洗にあたって
			高瀬礼子	受洗にあたって
			柴原照子	受洗して
			岩井道香	事実を知ることの力(恵泉女子高校2年クラス礼拝での感話)
				ろばのせなか
49	1982	4	木田献一	十字架につけられたメシヤ
			佐藤忠彦	バングラデシュへのささやかな接近
			阿蘇敏文	姉妹教会紹介 蚕室中央教会を訪ねて
			前島 信	1981年度定期総会報告
			阿蘇敏文	ろばのせなか
50	1982	5	阿蘇敏文	日本基督教団百人町教会設立
			木田献一	新しいぶどう酒
			阿蘇敏文	毎日新聞4. 16、5. 18、5. 19、
			朴 聖慈	自立的信仰
			田中	設立式及び祝辞
			溝部 昂	設立式へのメッセージ
			西村俊昭	設立式へのメッセージ
			黒木あい	設立式へのメッセージ
			小川圭治	設立式へのメッセージ
			上垣勝	設立式へのメッセージ
			大塩清之助	設立式へのメッセージ
			森山 恣	設立式へのメッセージ
			掛井 則	設立式へのメッセージ
			岩井健作	設立式へのメッセージ
			笹淵昭平	教団の諸教会と共に戦争阻止の戦いを
			小池健治	教団に加入して思うこと
			木田みな子	出エジプトを歩み続けたい
			小池恵子	『いくさ世を生きて—沖繩戦の女たち』真尾悦子著
				ろばのせなか
51	1982	8	木田献一	プロテスタントと信教の自由
			井田 泉	神社参拝と朴寛俊
			朴 景植	日本の植民地時代の体験記
			掛井五郎作品	静かな朝から来た少女 1977年
			島朝夫作	静かな朝から来た少女 詩集「遠い拍手」より
			趙 容来	青年会員より
			石原次郎	韓国の経済
			金 恩慈	婦人会会員より
			小池佐枝子	『憲法読本上・下』憲法問題研究会編
			坂百合子	ろばのせなか
52	1982	10	木田献一	兄弟姉妹とは誰か
				信仰グループ

号	年	月	執筆者	題
				希望グループ 愛グループ 父グループ 子グループ 聖霊グループ 健治, いづみ, 佐枝子, 一正
53	1982	12	菅谷ますみ 掛井三郎 井上智恵子 福渡さよ子 土岐祐子 掛井芙美 小池佐枝子 木田献一 金 南鎬 李 敬姫 笹淵いづみ 今里三代子 鄭 聖泰 坂百合子	おりがみ手品とわらぞうり作り 韓国に旅して 韓国での生活を終えて 「朝は来る会」～初めての合宿～ 百人町教会の修養会に出席して 『アイヌ民族抵抗史』新谷行著 ろばのせなか 新しい交わりを求めて 蚕室中央教会の祈り—合同修養会発題 修養会を終えて 蚕室中央教会との合同修養会に参加できた喜び 蚕室中央教会夕拝でのメッセージから 日本留学 『韓国・朝鮮人—在日を生きる』前川恵司著 家庭集会テキスト紹介 韓国語学習会 ろばのせなか 人と人との出会いの歌を アジアの現実における十字架 ろばと共にⅡ 一年生奮闘す 北千住の風景について いい顔 蚕室中央教会ニュース 『モモ』ミヒヤエル・エンデ著
54	1983	2	高瀬浩之 阿蘇敏文 木田献一 大庭昭博 池田春善 野毛一起 三浦 栄 鄭 啓和 長谷川まつ子 雨宮 隆	ろばのせなか 人々との出会いの歌を アジアの現実における十字架 ろばと共にⅡ 一年生奮闘す 北千住の風景について いい顔 蚕室中央教会ニュース 『モモ』ミヒヤエル・エンデ著
55	1983	3	木田献一 前島 信 酒井 透 小池和之 坂めぐみ 坂真理子 笹淵のぶ子	ろばのせなか 目をさましていなさい ベルギー便り パンを水の上に！ 中学への決意 苦勞をのりきって 高校へ入学する前に もうすぐ中学生 雨宮隆准充式
56	1983	6	小池恵子 阿蘇敏文 木田献一 笹淵昭平 高瀬浩之 李 秀清	『戦争と女たち—女の論理からの反戦入門』青木編 ろばのせなか 若者と共に—青年は悲しみながら立ち去った— 苦難と神を見ること 自分の目に正しいと見るところ 1982年度定期総会報告 再び私の道を歩まないで 『母の大罪』川崎義祐著
57	1983	8	金井美彦 阿蘇敏文 崔 東甲 木田献一 秋山眞兄 掛井五郎 小池佐枝子 坂百合子	私にとって宗教とは 蚕室中央教会長老就任式 答辞 権利の量と質 沖縄が私に語りかけてくること 私の彫刻論 激動の昭和史東京裁判 「東京裁判」をみて

号	年	月	執筆者	題
			野毛一起	伊藤虎丸著『魯迅と日本人』を読んで 百人町教会 蚕室中央教会 合同修養会
58	1983	10	井上輝子 高瀬浩之 笹淵昭平 木田献一 崔 東甲 掛井五郎 朴景植 吉田祐子 阿蘇敏文 野村裕之 川本ゆり子 田中和三郎	『メイド イン 東南アジア』塩沢美代子著 ろばのせなか 韓国の人を虐殺する日本人の体質 韓国のキリスト者と日本 交わりの真理—私にとってアジアとは何か? 日本から見た韓国 韓国の教会から見た日本の教会—修養会懇談会より 姉妹教会合同キャンプに参加して I 姉妹教会との合同修養会 巡礼の教会—WCC総会に参加して わたしをみた韓国 ろばのせなか
59	1983	12	木田献一 高瀬礼子 阿蘇敏文	イエスの苦難と変貌 里親の体験発表 反戦反核運動 杉並市民の会活動事例 もうひとりの留学生
60	1984	2	小池常隆 高島敦子 阿蘇敏文 阿蘇敏文 尾池 幸 阿蘇敏文 木田献一 ファミレダ 井上輝子 金井美彦	サウジ便り 1983年11月 真夏にスーツを着はじめた女たち 『砧をうつ女』李恢成著 『イスラムからの発想』大島直政著 ろばのせなか 明けまして「おめでとう」? 歴史の危機と教会 聖書の示す正義 反逆の軌跡 洗礼を受けるにあたっての覚書 日本基督教団百人町教会 降誕祭礼拝順序
61	1984	4	権田倫子 木村真理子 木田献一 久保祐輔 朴 聖慈	三彩の女 森禮子著 主婦の友社 ろばのせなか ゲッセマネとガリラヤ 援助・開発が生む新たな問題 歴史をみる目 教会懇談会—教会堂 その他について
62	1984	5	阿蘇道, 井上 榎本征子 井上輝子 いまさとみよこ 阿蘇敏文 木田献一 水野 誠	小池恵, 田中敬 受験生と共にみたもの、考えたこと 中学受験生の母親の経験 『聖母病院の友人たち』藤原作弥著 ろばのせなか どんな若者と共に歩むか 民衆の自立と世界の平和 子ども礼拝について 『彫刻・掛井五郎の世界』展
63	1984	8	小栗昭夫 阿蘇敏文 田中敬子 木田献一 掛井五郎 遠藤雅己 笹淵昭平 柴原照子 土岐 司 小池佐枝子 金井美彦	今を生きるアイヌ民族 『母は枯葉剤を浴びたダイオキシンの傷跡』中村著 ろばのせなか 復権・転移・合流 再生—永遠の命(1984・6・24青年礼拝説教より) 核時代に生きるキリスト者 信徒と教職—牧師就任にさいして— ブラジル便りNO. 1 読者のページ
64	1984	10	木田献一	『北富士の女たち』安藤登志子著 ろばのせなか 21世紀への平和

号	年	月	執筆者	題
			元 寿洵	平和のために働く人々
			小池和之	韓国旅行の感想
			桂川 潤	合同修養会をふりかえって
			田中敬子	日韓合同修養会に参加して
			S K	アジアの暑い風 共同通信外信部編
			柳 炯先	韓日合同修養会を終えて
			小池常隆	サウジ便り 1984年7月
			太田春夫	『遠野まつり』のすぐ後に
			尾池 幸	ろばのせなか
65	1984	12	木田献一	奴隷の根・独裁の根
			ジョセフ・ゲレザ	神と開発
			権田倫子	『北富士忍草を訪ねて』
			水野 誠	こども礼拝について(2)
			高瀬礼子	アメリカに乾杯! 1984年10月
			中森一信	権利と欲望の間
			木村真理子	ろばのせなか
66	1985	3	木田献一	アモリびとの悪が満ちるとき
			小池創造	牛のごとくゆっくり、ロバのごとく急いで
			高瀬浩之	海外研修を終えて
				聖歌隊誕生
			笹淵いづみ	子を失くして知らされた事
			前島 信	墓地会計報告
			神崎恭子	『羊飼の食卓』太田愛人著
			田中和三郎	ろばのせなか
67	1985	5	木田献一	神の国と復活
			穂積夏子	ミンダナオの失われた山林
			町田利章	受洗にあたって
			高瀬礼子	六ヶ月間の旅
				教会総会
			高島敦子	韓国へ行って思ったこと
			三田和芳	鎮魂のうた—S Kさんへ
			小池恵子	『オリーブの森で語りあう』エンデ、エプラー、テルヒ著
			いまさとみよこ	ろばのせなか
68	1985	7	木田献一	救いを求める民衆の叫び
			神鷹徳治	今ここに夜明けを生きる
			小池常隆	南の国に夜明けはあるか “この頃、思い迷う事”
			高瀬礼子	『二度生まれて』ベティ・ジーン・リフトン著、柴田都志子訳
			田中和三郎	ろばのせなか
69	1985	10	木田献一	現代の人間にとって宗教とは何か
			朴 景植	37年振りの再会
				修養会プログラム
			小池常隆	「新しきイマージュの創造」修養会報告
				主題への応答
			掛井芙美	アフリカの2人の息子を支えるために
			権田倫子	『女の人権と性 私達の選択 今人間として』
			池田啓基	ろばのせなか
70	1985	12	木田献一	しなやかにしたたかに生きる
			小池健治	靖国神社「公式参拝」問題 偶感
			高瀬浩之・礼子	ファミリーホーム「ろばの家」計画について
			井上輝子	『部落の女医』小林綾著
			坂 敬夫	ろばのせなか
71	1986	2	木田献一	亡国の土地を買う
			朴 聖慈	隣人と共に神の前に
			菊地 譲	主に従う
			小池佐枝子	『東京漂流』藤原新也著

号	年	月	執筆者	題
			金井美彦	ろばのせなか
72	1986	4	木田献一 朴 聖慈 高瀬浩之・礼子 掛井五郎 成島信夫 小池恵子	フィリピンの政変と教会—毒麦と雑草の物語 主よ！この地上に平和と平等を ろばの家誕生 高瀬夫妻へ むぶめんと 早春の津久井に佐沢さんをたずねて「3月家庭集会」
73	1986	5	木田献一 穂積夏子 鄭 聖泰 斉藤留美子 神崎恭子	神の支配の場 はかなかった喜び—フィリピン大統領選によせて 私が出会った日本と百人町教会 百人町教会で学んだ事 人間—神—人間 『女性画家列伝』若桑みどり著
74	1986	8	木田献一 成島信夫 テラバーニャ、ジエナハイ 掛井芙美 趙 英信 権田倫子 今里三代子	雲の柱・火の柱 イスラームの祈り フィリピンからの二通の手紙 ご支援ありがとうございました 主の御手に守られて—留学を終えるにあたって 5月家庭集会 ろばのせなか
75	1986	10	木田献一 権田倫子 小池常隆 阿蘇敏文 小池佐枝子 川本ゆり子	男と女 発題『聖書の中の男と女』 百人町教会修養会雑感“男と女” 昔の侵略者の息子が来て何をするのか 『生きる場の哲学』花崎阜平著
76	1986	11	木田献一 羅 宣貞 神崎恭子 松井みさ子 神崎恭子 阿蘇敏文 田中敬子	ろばのせなか 小宇宙としての人間 今日における宣教 韓国語を学びつつ 顔と顔とを合わせて 10月19日百人町教会礼拝証詞 合同修養会総合報告
77	1987	2	木田献一 阿蘇敏文 野毛一起 半沢慎介 神崎恭子 いまさとみよこ	ろばのせなか 1986年百人町教会10大ニュース 出来事となる福音 羽生伝道所開設決議まで 伝道所開設ころ構え 百人町教会降誕祭礼拝 ろばの家の一年をふりかえって 『マルーシャ』中林康子著
78	1987	4	木田献一 野毛一起 溝口 伸 権田倫子 立沢 小池恵子 金井美彦	ろばのせなか 変革の力としてのやさしさ 第1回伝道所総会前後のこと 家庭集会・読書会10年の歩み 私の課題 ネパールの俵さんを訪ねて テーブルセールってなに？ 『誰のための援助？』村井吉敬・甲斐田万智子著
79	1987	6	木田献一 野毛一起 韓国語クラス訳 小池健治 田中和三郎 松井みさ子 (い)	ろばのせなか 傷ついた人間 羽生伝道所の主日礼拝 民族の苦難とキリスト教女性運動(I)チェ・ミンジ著 日本国憲法と新国家主義(I)—そのおかれている状況 上野教会の地から(自分のこと) 『教育工場の子どもたち』鎌田慧著 ろばのせなか

号	年	月	執筆者	題
80	1987	8	木田献一 神鷹徳治 朴 聖慈 深津容伸 小池健治	原発は人類を減ぼす 不気味なアンケート 家庭の危機と教会の役割 神かカイザルか 日本国憲法と新国家主義(Ⅱ)—そのおかれている状況 修養会のお知らせ
			韓国語クラス訳 坂百合子 神崎恭子 穂積夏子	民族の苦難とキリスト教女性運動(Ⅱ) チェ・ミンジ著 『おばさんお話して』手塚まち子著 ろばのせなか ミンダナオだより
81	1987	10	木田献一 羅 宣貞 神鷹徳治 小池佐枝子 朴 容銀 小池佐枝子 いまさとみよこ	根っ子からの信仰—不受不施派の抵抗 神の国の奉仕者として 根っ子からの信仰—生活の再生を求めて サマーキャンプ 修養会に参加して 『夢のかけ橋—晶子と武郎有情』永畑道子著 ろばのせなか
82	1987	12	木田献一 カーター愛子 阿蘇敏文 阿蘇・木田 韓国語クラス訳 神崎恭子 小池恵子	自然の破壊と人類の危機 正義と平和と創造の保全 フィリピンに穂積夏子さんを訪ねて 「ミンダナオ諸宗教民族会議」ベン・バル牧師への手紙 民族の苦難とキリスト教女性運動(Ⅲ) チェ・ミンジ著 『だれが君を殺したのか』I.・コルシェノウ作 ろばのせなか
83	1988	1	阿蘇敏文 木田献一 菊池 茂 掛井芙美 野毛一起 韓国語クラス訳 ろばの家 神崎恭子	わたしも夢みる キリストとヴォータン 明日によせて バスク・ランドの旅 みんなでぐちゃぐちゃしてりゃ、どうにかなるさ 民族の苦難とキリスト教女性運動(iv) チェ・ミンジ著 クリスマスおめでとう 新年おめでとう—ろばの家 ろばのせなか
84	1988	3	木田献一 木村真理子 今村嗣夫 石田美智代 穂積夏子 小池恵子	国家と資本は人間を殺す アレツオ(イタリア)の精神医療を見て “赤の他人”の人権 レポート・中谷訴訟大法廷弁論 韓国での生活を終えて アキ/政権になってから(1)-市民が市民に銃を向ける・自警団 『不思議のフィリピン』中川剛著
85	1988	5	阿蘇敏文 木田献一 木村真理子 穂積夏子 鄭 聖泰 権田倫子 前島 信	目を覚ましていなさい 神の国はあなたがたの間にある イギリスにおける精神障害者のコミュニティーケア ろばの家訪問記 アキ/政権になってから(2) 軍・自警団による“共産主義者”狩り 夢と現実のハザマの中で 『土と日本人 農業のゆくえを問う』山下惣一著 ろばのせなか
86	1988	7	木田献一 木田みな子 小池健治 権田一正 大庭昭博	国民に対する公務員の密かな犯罪は無罪である なぜ賛美を歌うのか 最高裁の不当判決を糾弾する/さらに自由への闘いを 政教分離 チュービンゲンにて 百人町教会修養会案内 『ミカドと世紀末』山口昌男・猪瀬直樹対談 ろばのせなか
87	1988	9	木田献一	信仰と主体性—百人町教会の過去・現在・未来

号	年	月	執筆者	題
			小池健治 佐藤忠彦 もりみよこ 前島 信	大久保集会発足の精神と草創期 新しい教会像を求めて 私にとっての百人町教会 百人町教会修養会討論 百人町教会週報NO. 898
			木田献一 鄭 永恩 長島弘江 小池恵子 前島 信 小池健治	解放と復権の年、ヨベル—その背景と意味 ヨベルの年・統一・教会(蚕室中央教会側発題) 韓国訪問記 『ラディカルな日本国憲法』C. ダグラス・ラミス著 ろばのせなか 訂正
88	1988	11	木田献一 朴 聖慈 サミ・フォーシザ 久保祐輔 神崎恭子 坂百合子	象徴天皇制と日本人のナルシズム あなたがたはわたしを何者だと言うのか 生と死の狭間にて 申命記30:15 ヨハネ10:10 ミンダナオの農村の状況 —フィリピン便り— 『かわいそうな象』鬼沢真之 ろばのせなか
89	1989	2	木田献一 掛井五郎 小池佐枝子 今村嗣夫 穂積夏子 松浦信平 木田献一 阿蘇敏文 小池健治 佐藤忠彦 菅谷 博 坂百合子 小坂 仰	神の熱心とメシア 野の花、空の鳥—フランスから帰って ヒューストンでのクリスマス そのときがクリスマス 脇道 韓国から帰って 昭和の終りとキリスト者の責任 天皇を恥じ 福音を恥とせず Xデーについての所感 裕仁天皇の戦争責任とわたし 写真の中の若者が 『みえない雲』グードルン・パウゼヴァング著 ろばのせなか
90	1989	3	木田献一 金井美彦 笹淵昭平 野毛一起 阿蘇敏文 権田倫子 神崎恭子	権力の原罪 虚構からの離脱と新しい連帯に向けて 美竹から百人町を経て“いずみ”の地で 羽生でやりたいこと、たくさん… 故菊池茂さんのこと 『HELPから見た日本』大島静子・キャロリン・フランス共著 ろばのせなか
91	1989	5	阿蘇敏文 木田献一 蚕室中央教会 前中栄子 権田一正 神崎恭子 小坂 仰	春眠 民族の悲願を行動で表わした文益煥牧師北朝鮮訪問 3・1節70周年を迎え、ヒロヒト天皇死亡に際した私達の宣言 韓国チャリティコンサートを終えて 対談・百人町教会を語る 木村初・仲渡尚史 出版記念会に出席して 『セックス神話解体新書』小倉千加子著 ろばのせなか
92	1989	7	木田献一 (ひ) 増田 滋 (前) 小島悦子 つのゆうこ こいけつよし 斉藤留美子 阿蘇敏文 小池恵子	聖書の平和思想 青山学院大学基督教学会訴訟 オッド・フェローズ営業日誌 お店紹介 8キロ焼いたバーベキュー 8キロ焼いたバーベキュー 8キロ焼いたバーベキュー 夢中になったこと カンヌ、ニューヨークで 百人町教会修養会案内 映画『潤の街』監督 金佑宣 脚本 金秀吉、金佑宣

号	年	月	執筆者	題
			高島敦子	ろばのせなか
93	1989	10	木田献一 金井美彦 石田美智代 玄 末烈 小坂 仰 李 市峻 深津容伸 前島 信	一つとなる神の民 終わりの日の和解 朝鮮民族の苦難(1945年まで) 修養会学び① 日韓条約—合同修養会に向けての学び② 『日本人に告げる』—合同修養会に向けての学び② 修養会報告 友人ホンジュンへの手紙(日本滞在感想文にかえて) 『旧約聖書の中心』木田献一著
94	1989	11	木田献一 金井美彦 李秀悦 佐藤忠彦 柳下千恵子 猪狩 隆 神崎恭子 神崎・小坂	ろばのせなか 黙示としての民衆 日韓歴史教科書を読む—合同修養会発題要旨 日本教科書の韓国史歪曲 合同修養会報告 現代版「かわいい子には旅をさせよ」 自転車旅行千七百キロ 『韓国公害レポート』仁科・野田著
95	1990	2	阿蘇敏文 木田献一 柴原照子 松浦信平 野毛美智子 小坂仰 長谷川まつ子 長島弘江	ろばのせなか 十字架の刺青 民衆の命の誕生 前中栄子リサイタルPⅢ 韓国TND労組員の来日 羽生にて 新しい動きを求めて～青年会の発足～ エビと日本人 村井吉敬著 岩波新書
96	1990	3	木田献一 石田美智代 編集部注 坂真理子 木田いずみ 小林 明 坂百合子 坂百合子	ろばのせなか 民衆を通して働く神の力 神崎、小坂、高島、長島、坂(百)、前島 特集「ろばのおなか」 TND労組がきてから TND争議 「頭」と「心」の違い 「卒業にあたって」にかえて清志郎について語る 自己紹介から 『韓国の教科書の中の日本と日本人』筒井真樹子訳
97	1990	5	木田献一 榊原めぐみ 阿蘇道子 編集部より 小坂 仰 金井美彦 阿蘇敏文 高島敦子	ろばのせなか フェミニズムの提起する問い(1) 君が代について考える教師たち 青年への期待 「ろばのおなか」出席者名 サラフィナ 『エレミヤ書を読む』木田献一著 羽生伝道所完成
98	1990	7	木田献一 増田 滋 金井美彦 野毛一起 木村真理子 井上輝子 神崎恭子	ろばのせなか 捨てられた神—フェミニズムの提起する問い(2) 百人町教会は私の土台 牧師就任にあたって 「穂積夏子さんのフィリピン活動を支援する会」ご参加とご協力 羽生伝道所「献堂式」「就任式」の巻 カナダ女性とセラピーの会議に参加して 癌と闘う
99	1990	9	木田献一 井上輝子 小池常隆 笹淵昭平 菅谷 博	ろばのせなか モンスターとしての技術—自然・人間・都市 続 癌と闘う 美竹から大久保へ 無牧時代 靖国・天皇・最高裁

号	年	月	執筆者	題
			池田春善	三里塚
			大庭昭博	青山神学科問題
			阿蘇敏文	「教職」と百人町教会
			小池健治	日本基督教団加入
			斉藤留美子	「ろば」一摸索を生命の鍵として
			鄭 聖泰	生きる場での百人町教会との出会い
			高瀬礼子	百人町教会から ろばの家がうまれるまで
			佐藤忠彦	修養会
			小池恵子	家庭集会
			権田一正	聖書研究会と私
			阿蘇道子	こども礼拝
			小坂 仰	百人町教会・夏！一二つの修養会報告
			神崎恭子	『聖書と教会』9月号座談会
			青木恵美子	『木を植えた人』ジャン・ジオノ著 原みち子訳
			小坂 仰	ろばのせなか
100	1990	11	記念座談会	いま、「主体性」を問う 百人町教会の20年
			今村嗣夫	ろばのせなか
			木田献一	なくてならないもの 1973. 5. 27
			木田献一	集会の今後の課題 1974. 3. 23
			木田献一	イスラエルの宗教の基礎 1974. 8. 11
			木田献一	神の民・イスラエル 1974. 8. 11
			木田献一	あがないの運動 1975. 8. 20
			木田献一	神の支配の場 1986. 5. 25
			今村嗣夫	百人町教会年表